

A nationwide survey on tracheostomy for very - low - birth - weight infants in Japan

倉田, 浩昭

<https://hdl.handle.net/2324/4060262>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 論文博士
バージョン :
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)

(別紙様式2)

氏名	倉田 浩昭			
論文名	A nationwide survey on tracheostomy for very - low - birth - weight infants in Japan			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	中川 尚志
	副 査	九州大学	教授	山浦 健
	副 査	九州大学	教授	加藤 聖子

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

極低出生体重児は呼吸障害が遷延した時に気管切開が検討される。2003年から2012年に周産期母子医療センターネットワークデータベースに登録された児で日齢28日以降も生存した34674人をもとに、極低出生体重児の気管切開の疫学と危険因子を検討した。気管切開の割合に増加はなく、気管切開の有無による死亡率に有意差はなかった。気管切開を受けた児は重症または中等度の気管支肺異形成(BPD)が有意に多く、在院日数が長かった。気管切開を受けた児は低酸素性虚血性脳症・筋疾患・重症または中等度の気管支肺異形成・染色体異常・敗血症の合併症の割合が多かった。

以上の結果は、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについてもほぼ適切な解答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格とした。

なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。